

悲惨な事故撲滅訴え

豊平区の交通安全啓発に参加

札幌建設協



札幌建設協協会は、9

日に札幌市豊平区の国道36号沿いで実施された地域総ぐるみの交通安全街頭啓発に参加した。悲惨な交通事故の撲滅をドライバーに訴えるとともに、安全で住みよいまちづくりに協力した。

主催は東月寒まちづくり協議会「童夢」。2006年から秋の交通安全運動の一環として街頭啓発を実施してきたが、09年以降は参加者が1000人を突破し、市内でも有数の運動となっ

た。

今回は住民組織や産業団体など110団体から約1200人が参加。強風と雨に見舞われながらも、月寒東1条12丁目から同20丁目までの約2キロにわたって参加者が歩道に並

旗の波をつくり安全運動を呼び掛けた

び「スピードダウン」や「シートベルト着用」と書かれた旗をなびかせた。

札幌豊平警察署の角田康夫署長は「8日現在、全道で高齢者を中心に138人が命を落としている。危機的な状況の中、安全意識の醸成は大変意義がある」と激励した。

札幌建設協からは49社102人が参加。竹田邦治交通安全対策委員長は「地域住民と一緒に交通安全を呼び掛ける活動が効果的であり、最大の社会貢献。追い込み期に入り、一層の安全運転に努めるよう運動を展開したい」と話していた。

スピードダウン呼びかけ

札建協が秋の交通安全街頭啓発

会員企業100人が参加



発を行った。当日は台風23号の影響で風雨の強い天候となったが、会員企業から関係者約100人が参加し安全旗を振ってスピードダウンを呼びかけた。

一般社団法人札幌建設業協会(岩田圭剛会長)は九日、札幌ドーム前の国道三六号沿いで市民団体等と連携した秋の交通安全街頭啓発

じめ百十七団体の関係者一千二百人が国道三六号沿いで交通安全を訴えた。

開会式では、豊平警察署の角田康夫署長が最近の交通事故の特徴として高齢者の事故が多発している指摘。街頭啓発を通して、「安全運転の意識を醸成しては

しい」と訴えた。

このあと、一行は街頭啓発する国道三六号沿いの指定個所に移動。札建協は二班に分かれて、道行くドライバーに安全旗を振って安全運転を呼びかけた。札建協が市民団体と連携した交通安全活動は、今回

が五回目となる。この日、活動に参加した竹田邦治交通安全対策委員長は「地域の一員として活動することに意義がある。今後とも継続していきたい」と話していた。